

2019年度事業実績報告の概要（小規模事業経営支援事業費補助金関係）

団体名： 豊山町商工会

事業名	事業概要（背景・目的）	事業実績	主たる対象者	事業評価										今後の展開・改善点等	備考		
				目標①			目標②			得られた効果		A B C D評価					
巡回・窓口相談指導事業	小規模零細企業を中心に、経営指導員等が事業所へ訪問し、経営全般について指導をすることにより、経営及び技術の改善を図る。また、健全な企業を育成するとともに、創業予定者を始めとした経営全般に係る相談窓口の設置により、経営改善に資する指導を行う。	巡回窓口指導実企業数238社（うち非会員5件） 巡回窓口指導延件数600件 課題解決提案数 23件 経営革新承認件数 1件 小規模事業者 持続化補助金2件 県商工会連合会 各種専門家派遣利用件数 20社 40回	小規模事業者	4 巡回窓口指導延件数 (達成度 120.0 %)			指標 課題解決提案件数 (達成度 115.0 %)			小規模事業者の相談相手として、企業の体質改善支援及び各種施策普及を図ることができた。また県連合会の各種専門家派遣制度の利用を事業者に積極的に勧めの課題解決に繋げた。		総合評価 A	事業実施評価 A	自己評価 A	調査結果 事業者への 満足度 A 必要性 A	目標	各種専門家派遣を利用することにより、事業所の経営力向上と同時に職員の資質向上にもつながるので、積極的に利用し事業所の課題解決に繋げる。
				目標数値	500	実績数値	600	目標数値	20	実績数値	23					目標達成度 A	
記帳継続指導	個人事業主を対象に正しい記帳方法の指導と、決算・確定申告の指導を行い、適正な税務申告と経理の自計化や計数管理による経営力の向上に結びつける。	・指導対象者数78人 ・指導延日数408日 ・指導延回数842回	個人事業主	指標 記帳指導事業者数 (達成度 105.4 %)			指標 (達成度 %)			本年も記帳継続指導を通して、正しい税務知識を修得してもらうとともに、税務相談を通して昨今の経済情勢における企業の納税意識の向上も図ることができた。新規の記帳対象者やいずれ自己記帳を希望する者へは、内容の理解を深められるよう指導を心掛けた。		総合評価 A	事業実施評価 A	自己評価 A	調査結果 事業者への 満足度 A 必要性 A	目標	消費税増税やe-taxの対応など見直すことができた。安定した指導を続けられるよう、職員で協力しながら遂行し、次年度の目標は1件増を目指す。
				目標数値	74	実績数値	78	目標数値		実績数値						目標達成度 A	
講習会	多様化する経営環境に対応するため、小規模事業者にとって必要な金融・税務・経理・労働・情報化等の知識習得や時事的な問題についての啓蒙を図り、事業者の資質の向上と円滑な事業運営に資することを目的とする。	講習会開催回数及び受講予定者数 集団 4回 96人 個別 15回 85人 広域 1回 2人 計 20回 183人	小規模事業者	指標 講習会受講者数 (達成度 114.4 %)			指標 (達成度 %)			小規模事業者の経営上必要な知識の習得、資質の向上に資することができた。本年よりe-taxによる税務申告に対応するため、また期中に税理士の指導を受けられるよう個別指導日を増やした。		総合評価 A	事業実施評価 A	自己評価 A	調査結果 事業者への 満足度 A 必要性 A	目標	青色申告控除額が紙での申告とe-tax申告とで変わることに伴い、税理士の指導を仰ぎながら事業所の支援をするため、税理士による講習会回数を増やす。対象者に周知できるよう文書の配布だけでなく声掛けもしていく。
				目標数値	160	実績数値	183	目標数値		実績数値						目標達成度 A	
若手後継者育成事業	「新商品や新サービスを開発したが、売れない」「新商品を開発しても売れるかどうか不安があるため開発に踏み切れない」といった声が多く聞かれ、需要開拓・販路開拓が多くの小規模事業者の課題となっている。しかし、小規模事業者は多額の広告宣伝費をつぎ込むことが困難であるため、テレビや新聞などのマスコミを活用することで、その課題を解決する必要がある。そこで、プレスリリースセミナーと個別相談会を開催し、各事業所が継続的にプレスリリースを行えるように支援することで、小規模事業者の売上向上と新たな事業に取り組む意欲の向上を図る。	令和元年7月11日 プレスリリースセミナー 受講者数12名(12事業所) 令和元年8月1日 プレスリリース個別相談会 受講者数4名(4事業所)	小規模事業者 青年部員 女性部員 及びそのOB	指標 講習会受講者数 (達成度 80.0 %)			指標 (達成度 %)			これまで多くの事業所にとってマスコミ取材は「待ち」の姿勢であったが、自らプレスリリースをして取材班を呼ぶことができることを知った参加者にとって良い機会となった。 個別相談会に参加した4事業所はプレス資料を完成させ、その内3事業所はテレビ局や中日新聞などにプレスリリースを行った。その内1事業所はメーテレの「デルサタ」という番組が取材に来店し、3月14日(土)の放送に至った。 早朝の放送であったにも関わらず、テレビ放送の影響は大きく、販路開拓に貢献した。		総合評価 A	事業実施評価 A	自己評価 A	調査結果 事業者への 満足度 A 必要性 A	目標	事業実施により得られる効果が高いため、販路開拓に係る若手経営者の資質向上を図るため、継続して実施したい。昨年に続き2度目の開催なので、集団講習への参加者数は減少する見込みだが、個別講習により深い内容での支援を行う。
				目標数値	20	実績数値	16	目標数値		実績数値						目標達成度 B	
地域産業祭事業	豊山町民等に地域産業を紹介するとともに、ふれあいの場を設けて商工会活動への理解を深め、もって産業の発展と振興に寄与することを目的とする。	令和元年10月27日 豊山町社会教育センターで開催 出店数24店	小規模事業者 豊山町民	指標 出店事業者数 (達成度 80.0 %)			指標 (達成度 %)			地域住民に地域産業に対する認識が高まり、商工会活動にも理解が深まった。また、地域産業の発展と振興に寄与することができた。本年は出店事業所に対する消費者の意見をアンケートで集め、今後の経営に役立てられるよう支援した。		総合評価 B	事業実施評価 B	自己評価 A	調査結果 事業者への 満足度 A 必要性 A	目標	地域に根付いた行事であり、町民の支持を得ている。出店者、来場者が増え、事業者への理解や町の活性化に繋がるよう事業内容を検討しながら継続する。
				目標数値	30	実績数値	24	目標数値		実績数値						目標達成度 B	
地域総合振興事業	各種お祭・神事等に協賛することにより、その集客力を活かして地域の経済活動を促進し地域の産業や商工会PRの機会とするとともに、地域の総合的な振興を図ることを目的とする。昨年から行っているわくわくウォーキングは、町民の健康増進を図るとともに、町内の商工業者等を紹介し、町の活性化と町内商工業者の振興を図ることを目的とする。また、メッセナゴヤ視察会は事業に役立つ最新技術やサービスを知る機会を得るために開催する。	出前朝市イベント出店 3回 福祉フェス・環境フェス・航空祭等 出店合計20店舗 平均6店舗 わくわくウォーキング 令和元年12月1日251人	小規模事業者 豊山町民	指標 朝市平均出店者数 (達成度 60.0 %)			指標 わくわくウォーキング参加者数 (達成度 83.7 %)			各事業を通して地域の産業や商工会のPR等を図るとともに、会員企業相互の交流や、会員企業と消費者である町民との交流を図ることができた。		総合評価 A	事業実施評価 A	自己評価 A	調査結果 事業者への 満足度 A 必要性 A	目標	朝市について、目標を平均出店者数から総出店者数に変更するため、数値が上がる。わくわくウォーキングについて、参加者数が増加しているため更なる内容充実により参加人数増加に努める。
				目標数値	10	実績数値	6	目標数値	300	実績数値	251					目標達成度 C	
																①変更する②現行どおり	

※ 経営発達支援事業として認定を受けた事業については、備考欄に○を付しています。
 ※ 事業評価欄において、1つの事業で目標が2つある場合、目標達成度の評価は2つの平均となります。
 ※ 記載内容についての詳細資料は、各団体において整備しています。

2019年度事業実績報告の概要（小規模事業経営支援事業費補助金関係）

団体名： 豊山町商工会

事業名	事業概要（背景・目的）	事業実績	主たる対象者	事業評価										今後の展開・改善点等	備考
				目標①			目標②			得られた効果	A B C D評価				
福利厚生事業	中小企業、小規模企業の経営・雇用の継続的な安定を図るために、各種共済制度を普及し企業の健全な育成に資することを目的とする。	特定退職金共済 170口 中小企業共済 97口 経営者年金 21口 商工会業務災害 10件 ビジネス総合保険 8件 PL保険 3件 商工会福祉共済 1件 団体自動車保険 12件 愛知火災共済 12件 自動車事故共済 5件 合計339件	中小・小規模事業者	指標 各種共済加入口数 (達成度 89.2 %)	指標 (達成度 %)	各共済とも、全会員宛発送文書のある際にパンフレットを同封したり、会議や講習会の際に説明をするなどして周知することができた。 中小企業共済については共済担当者と巡回し制度説明に回った。団体自動車保険については産業まつりで保険代理店が出店しPRした。	総合評価 A	事業実施評価 A	自己評価 A	調査結果 事業者への	満足度 A	補足	目標 現状維持	各種共済内容を職員で再確認し、会員相談の際に、各事業所に適した共済を提案できるようにしたい。	
健康普及事業	中小企業、小規模企業の経営・雇用の持続的な安定を図るために、従業員の健康診断事業を実施し、企業の健全な育成に資することを目的とする。 また、保健センターと協力し、町内事業所従業員の健康相談も併せて行う。	令和元年9月20日 豊山町社会教育センターにて実施 受診者数180名	小規模事業者及び従業員	指標 受診者数 (達成度 94.7 %)	指標 (達成度 %)	協会けんぽの補助が受けられるよう仕組みの改善をし、受診者の満足度に繋がった。中小企業及び小規模企業等の従業員の健康状態をチェックしてもらうことにより、企業の福利厚生充実に繋げることができた。	総合評価 A	事業実施評価 A	自己評価 A	調査結果 事業者への	満足度 A	補足	目標 下げる	協会けんぽの補助が受けられるようになったが受診者の待ち時間が増え、受診人数に限られるため目標人数を下げ、健康診断実施機関と相談しながら対応する。	
労働保険事業	事業主等の委託を受けて、事業主に代わって労働保険料の申告納付その他労働保険に関する各種の届出等の事務手続を行うことにより、中小事業主の事務処理の負担を軽減し、労働保険の適用促進及び労働保険料の適正な徴収を図ることを目的とする。	事業所数 60企業 従業員数 110人	中小商工業者	指標 委託事業者数 (達成度 100.0 %)	指標 (達成度 %)	労働保険加入による、従業員雇用安定を充実させることができた。 また、事業主の事務負担を軽減し労働保険の適用促進を図ることができた。	総合評価 A	事業実施評価 A	自己評価 A	調査結果 事業者への	満足度 A	補足	目標 実施方法	労働保険の加入の必要性をPRし、従業員の福利厚生の充実に努めていく。	
税務関係団体指導事業	法人会の税務支援団体の活動をサポートし、事業運営に協力することにより、商工業の活性化に資することを目的とする。	令和元年5月10日 通常総会 令和元年10月 PR及び新規加入勧奨活動 令和元年11月10日 講演会 令和2年1月21日 研修会・賀詞交換会	豊山町内小規模事業者法人企業	指標 会員数 (達成度 84.9 %)	指標 (達成度 %)	講演会は、「日本経済と中小企業の展望」と題し経済ジャーナリスト須田慎一郎氏により、経済の状況と今後の消費動向等幅広い分野についての講演会であり、事業者にとって有意義な講演会となった。1月の研修会は、元金融機関出身でユーモア・コメディを得意とし、商売繁盛の秘訣や商談のテクニックなどを学んだ。また、会員企業間の事業活動拡大の機会として賀詞交換会を開催した。	総合評価 B	事業実施評価 B	自己評価 A	調査結果 事業者への	満足度 A	補足	目標 下げる	事業所の廃業増に伴い、会員数も減少している。法人会本部や他のグループと協力し、事業の充実に努める。	
商店街振興事業	豊山町の消費者等への交通や防犯の安全及び美化を目的として、設置している街路灯の維持管理をする。	街路灯設置数78件	街路灯設置小規模事業者	指標 街路灯設置数 (達成度 101.3 %)	指標 (達成度 %)	街路灯を設置することにより町内の防犯に貢献することができた。	総合評価 A	事業実施評価 A	自己評価 A	調査結果 事業者への	満足度 A	補足	目標 現状維持	廃業に伴う廃灯があったが、新規で設置したい事業所もあるので継続する。	
青年部・女性部事業	会議・行事・事業での青年部・女性部員間の交流や社会福祉を通じて地域との関わりを持つことにより、地域社会の発展に寄与することを目的とする。	青年部 会議 8回 27人 交流事業 1回 3人 振興事業 4回 29人 その他 10回 17人 青年部合計23回76人平均3.3人 女性部 会議 5回 41人 交流事業 3回 32人 主催協賛事業3回43人 女性部合計11回116人平均10人	小規模事業者青年部員女性部員及びそのOB	指標 青年部事業への平均参加人数 (達成度 66.0 %)	指標 女性部事業への平均参加人数 (達成度 100.0 %)	青年部においては、積極的に会議・事業に参加し、地域の活性化に大いに貢献したが、後継者不足等による部員数減少のため、参加人数の実績数値は目標を達成できなかった。 女性部については、会議・事業を通じ部員間の情報交流を深め、地域の活性化に貢献した。また部員以外も参加できるようにし、いずれ女性部に加入してもらえるよう積極的に声掛けも行き、PRした。	総合評価 A	事業実施評価 A	自己評価 A	調査結果 事業者への	満足度 A	補足	目標 ①下げる②現状維持	青年部は部員の減少が著しいため、青年部員増強を重点的に取り組んだが、思うように進んでいない。部員数に合わせて目標数を下げるが、継続して部員増強に努めたい。また女性部については高齢化が進んでいるので若い世代の加入を増やすため、事業の見直しを検討する。	
部会・委員会事業	各種事業・行事・会議において商業・工業部会との交流や社会福祉を通じて地域との関わりを持つことにより、地域社会の発展に寄与することを目的とする。また、その目的のために委員会を開催する。	商業部 会議 1回 6人 総代会 1回 14人 事業 5回 講習会 58人 輪くぐり 6人 環境美化3回 18人 工業部 総代会 1回 9人 幹事会 2回 9人 事業 2回 視察研修 14人 産業まつり 8人 合計 12回 142人 平均11.8人	小規模事業者	指標 各種事業への平均参加人数 (達成度 147.5 %)	指標 (達成度 %)	会員・部員相互の親睦が深まり、重要な情報交換の機会が得られた。 また、各事業に協賛することにより、イベントの集客に寄与することができた。	総合評価 A	事業実施評価 A	自己評価 A	調査結果 事業者への	満足度 A	補足	目標 下げる	参加者が減少傾向だった研修事業を廃止し、事業所が広く利用できるような各種技能研修や資格取得に対する助成金制度を開始。まずは制度周知をする。目標数値は制度利用者数に変更する。	

※ 経営発達支援事業として認定を受けた事業については、備考欄に○を付しています。
 ※ 事業評価欄において、1つの事業で目標が2つある場合、目標達成度の評価は2つの平均となります。
 ※ 記載内容についての詳細資料は、各団体において整備しています。